

中野区教育委員会会議録

令和5年第28回定例会

令和5年8月25日

中野区教育委員会

令和5年第28回中野区教育委員会定例会

○日時

令和5年8月25日（金曜日）

開会 午後 7時00分

閉会 午後 8時07分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 村杉 寛子

教育委員会委員 平本 紋子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 岡本 淳之

○出席職員

教育委員会事務局次長 石崎 公一

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

渡邊 健治

指導室長 齊藤 光司

学務課長 佐藤 貴之

○書記

教育委員会係長 香月 俊介

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長 入野 貴美子

教育委員会委員 村杉 寛子

○傍聴者数

3人

○議事日程

1 議決事件

(1) 第43号議案 中野区教育委員会いじめ問題対策委員会委員の委嘱について

2 協議事項

(1) 英語教育について (指導室)

3 報告事項

(1) 事務局報告

①教育相談室の土曜日開室の試行について (指導室)

○議事経過

午後 7 時 00 分開会

入野教育長

こんばんは。定足数に達しましたので、教育委員会第28回定例会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、村杉委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

さて、本日の夜の教育委員会は、夜間に教育委員会を開催することによりまして、昼間、教育委員会を傍聴することが難しい方にも、教育委員会を傍聴できる機会を設けるために実施しております。

会議の進行につきましては、通常の教育委員会と同じように進めてまいります。本日の協議事項の「英語教育について」の終了後、会議を一旦休憩し、協議テーマの英語教育、またその他の教育について、傍聴の方のご意見をいただく時間を設けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、日程に入ります。

<議決事件>

入野教育長

初めに、議決事件の審査を行います。

議決事件、第 43 号議案「中野区教育委員会いじめ問題対策委員会委員の委嘱について」を上程いたします。

提案の説明をお願いいたします。

指導室長

「中野区教育委員会いじめ問題対策委員会委員の委嘱について」、ご説明させていただきます。

現在の中野区いじめ問題対策委員会委員は、令和 3 年 8 月 27 日の第 23 回定例会におきまして、令和 3 年 9 月 1 日より 2 年間委嘱することを議決いただきました。今年の 8 月 31 日をもって任期満了となるため、次期中野区いじめ問題対策委員会委員の委嘱をいただくものでございます。

資料をごらんください。根拠及び委員構成ですが、根拠は中野区いじめ防止等対策推進条例です。委員は、学識経験を有する者、並びに法律、心理、福祉等に関する専門知識及び経験を有する者のうちから、教育委員会が委嘱することとなっております。任期は 2 年

となっております、令和5年9月1日から令和7年8月31日までとなっております。委員数は5名でございます。職務は、資料に書かれております2点となります。

委員候補者は、これまで2年間にいじめ問題対策委員をお引き受けいただいております5名の先生方です。9月からの2年間も引き続き委員として教育委員会へ推薦をさせていただきたいとご依頼をいたしましたところ、ご快諾をいただきました。改めて委嘱させていただきます候補者の先生方を、簡単ではございますが、ご紹介をさせていただきたいと思っております。

坂田仰先生は、学識経験者として入っていただいておりますが、ご専門は教育法制論であり、教育裁判の研究をされていらっしゃいます。東京都のいじめ問題対策委員も歴任されている先生であり、日本女子大学教職教育開発センターの教授でいらっしゃいます。

法律の分野からは、大島やよい先生を候補者とさせていただきます。弁護士であり、元中野区教育委員会の委員長でもいらっしゃいます。

心理の分野からは、鶴養美昭先生を候補者とさせていただきます。日本女子大学の名誉教授でいらっしゃいます。

医療の分野からは、吉益麻里先生を候補者とさせていただきます。あしかりクリニックのお医者様でいらっしゃいます。

最後は、福祉の分野から牧野晶哲先生を候補者とさせていただきます。白梅学園大学子ども学部准教授の先生でいらっしゃいます。

各先生方からは、それぞれの専門的な分野から、中野区としていじめ防止に向けた様々な調査結果等をもとに、ご意見をいただきたいと考えてございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

入野教育長

ただいま上程中の議案につきまして、質疑がありましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。

平本委員

5名の委員の先生方に引き続きお願いできますことは、大変ありがたいことかと思っております。特に、もし重大事態が発生したような場合には、適切な対処と委員会による調査が非常に重要になってまいりますので、教育委員会としても、調査結果等の報告を踏まえて適切な防止対策に努めていければと考えております。

以上です。

入野教育長

ほかによろしいでしょうか。

ほかには質疑がございませんので、質疑を終結します。

それでは、簡易採決の方法により採決を行いたいと思います。

ただいま上程中の第43号議案を原案のとおり決定することに、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

入野教育長

ご異議ございませんので、原案のとおり決定いたしました。

<協議事項>

入野教育長

続いて、協議事項に移ります。「英語教育について」協議をいたします。

初めに、指導室長から区の英語教育に係る取組等について説明を受け、その後、教育委員の皆様からご意見を伺い、協議を進めてまいりたいと思います。

それでは、初めに事務局から説明をお願いいたします。

指導室長

それでは、中野区の「英語教育について」、ご説明申し上げます。

今年の5月に策定いたしました中野区教育ビジョン第4次に書かれております教育理念、「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」を実現するための視点の二つ目といたしまして、自ら考え、学び、行動する人材を育成する教育がございます。グローバル化が一層進む中、様々な人との交流や英語教育などを通じて、多種多様な価値観や歴史・文化を認め合う心、コミュニケーション能力を育むことが書かれており、小学校での外国語活動、小学校5、6年生と中学校での英語教育に力を入れて取り組んでおります。

中野区が目指す英語教育の姿として、2点を掲げております。1点目は、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。2点目は、外国語を学ぶ意欲をもち、多文化共生が進んだ社会の様々な場面で必要となる外国語によるコミュニケーション能力が身につくことです。

本区における外国語活動・英語教育の現状と課題についてです。令和5年度4月に実施いたしました中野区学力にかかわる調査では、「英語で話しかけられたときに相手の言うことを聞き取ろうとしている」、中学校2年生で91%、「まちがいをおそれずに、英語で

話そうとしている」、こちらも中学校2年生で56%となっております。課題といたしましては、相手の言うことを理解しようとする意識は高いのに対し、間違いをおそれて積極的に英語を話せないと感じている生徒の割合が高いことがわかります。

また、同じく今年の4月に実施いたしました令和5年度全国学力・学習状況調査からは、「英語の勉強は大切だと思う」と回答した割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに高いのですが、「英語の勉強は好きである」と感じる割合は、学年が上がるにつれ、減少しております。「学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にある」と回答した割合も約半数であり、授業で英語を学んでもそれを活用する機会が少ないことは課題であると言えます。

英語教育の充実に向けた主な取組といたしまして、1点目は英語に触れる機会の確保、2点目は英語体験活動の充実、3点は専門的教員の育成と指導力の向上、最後、4点目は英語でのコミュニケーション能力の定着です。

具体的な取組について、順にご説明をさせていただきます。

まず、1点目の英語に触れる機会の確保ですが、中野区では、令和5年度より小学校5年、6年生の英語科と小学校3、4年生の外国語活動に加えまして、小学校1、2年生での外国語活動を全小学校で実施し始めました。また、小学校のALT、アシスタント・ラーニング・ティーチャーの略でございますが、このALTを「派遣契約」に変更いたしまして、全小中学校に配置いたしました。ALTは外国語の授業だけでなく、教育活動の様々な場面で活用できるようにし、子どもたちが英語に触れる機会を確保しております。

こちらは、令和5年度のALT配置時数となっております。ごらんいただいている赤字の部分に変更となった箇所です。昨年度よりも大幅に時間数を増やしたことがおわかりになるかと思えます。

こちらは、ALTの授業以外の様々な活動例を掲載したものでございます。例えば①の他教科との連携では、社会科での世界の地理について学ぶ場面や、音楽の授業場面でALTにも入ってもらおうといったことを行ってございます。写真は少し小さくて見にくいのですが、調理実習の場面にALTが入っている場面となっております。

また、左下の⑤イングリッシュ・カフェは、昼休みや放課後の短い時間にもALTとコミュニケーションをとることができる機会をつくっております。その隣の⑥クラブ活動は、英語部だけではなく、バスケットボールが得意なALTと一緒に活動している例などもございます。

⑧のスピーチ・プレゼン指導では、文化発表会に向け、英語での発表の練習を一緒に行ったり、プレゼンテーションを作成する際に、ALTからアドバイスをもらったりしております。また、右上の⑩絵本の読み聞かせは、小学校低学年の子どもでもわかる有名な絵本を英語版で読んでもらうといったことなどを行ってございます。

次は、2点目の英語体験活動の充実です。令和2年度より、小学校4年生を対象に、TOKYO GLOBAL GATEWAY、頭文字を取ってTGGと呼んでおりますが、ここで英語体験プログラムを実施しております。写真は、子どもたちが買い物などの疑似体験をしている様子や、プログラミングやダンスなどに英語で挑戦している様子です。実際に体験した4年生の感想からは、お店での「これ、ください」の言い方は海外で使えそうであった、エージェントのサポートが優しくてよかった、心が一つになった、ジェスチャーが楽しかった、全て英語で話すのが難しかったなどの意見が寄せられております。

また、今年、令和5年度より、中学校1年生を対象とした軽井沢少年自然の家での宿泊による英語体験活動、通称：中野区イングリッシュキャンプと呼んでございますが、この体験活動を10月からスタートさせる予定でおります。特徴といたしましては、生徒10名につきALTを1名配置していることや、1泊2日で様々なアクティビティをすること、そして行き帰りのバス内でレクや、その他、食事、フリータイムなどもALTと一緒に過ごし、英語を使ってコミュニケーションをとる機会の確保をしていることとなります。

主な英語体験活動の内容といたしましては、写真にございます各国のブースを用意しまして、ALTにアドバイスをもらって、生徒たちによる国の紹介を行うワールドツアーやレストランでのオーダーの疑似体験、また世界クイズ、体を使ったアクティビティ、星空観察、そして、最後、2日間体験したことのまとめといたしまして、英語でのスピーチをするといった取組などになります。

次に、3点目の教員研修の充実です。令和2年度より、小学校に英語教育アドバイザーを派遣し、外国語活動や英語の研究授業を通じた研修を実施しております。特徴としましては、優れた指導力のある講師が各小学校を訪問し、各校の実情に合わせた指導を実施していることや、外国語活動と英語の研究授業を各1回行うことで、英語教育の系統性を先生たちに意識してもらうこと。そして、新しいデジタルコンテンツ等の教材を紹介していることなどが挙げられます。

こちらの写真は授業研究の様子です。楽しく歌でスタートし、担任や英語専科の先生をメインとしてALTと教員が連携をしながら、子どもたちが体を動かしたり、多くの友達

と会話を行ったりしております。

研修後の先生たちの声をご紹介させていただきます。

小学校の英語の「言語活動」がどういうものか、具体的にわかりました。授業後、アドバイザーの先生から個別にご指導いただき、発音に関する心配や、子どもたちに英語でどのような声かけをすればよいかといった悩みが少なくなりました。本校では、教員全員でアドバイザーの先生の話の伺いました。外国語活動と英語のつながりや、中学校への系統性など、見通しをみんなで共有できたのがよかったです。子どもたちが「英語を使うことが楽しい」と思えるように、授業づくりを工夫していこうと思いますといったものです。

最後は、英語でのコミュニケーション能力の定着についてです。中野区では、中学校の英語検定受験料の補助を行っております。中学校卒業までに英検3級以上を取得することを目標に掲げ、中学校2年生の1月から中学校3年生の11月の間に英語検定を受けることができるように、英語検定1回分の受験料を区が補助しております。昨年度の実績ですが、区立中学校3年生の英検3級以上の取得率は50.6%となっており、前年度よりも約3ポイント増加をいたしました。生徒たちの中には、英検1級に合格するような生徒もおります。今後も国際社会で子どもたちが活躍できるよう豊かな英語体験などを通じて、子どもたちの自己肯定感や自己有用感を育み、生涯を通じて、みずから考え、学び、行動し、自信を持って様々なことにチャレンジする気概と勇気を兼ね備えた人材を育成してまいりたいと思います。

以上で説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

入野教育長

ただいまの説明や協議テーマに関しまして、ここで、教育委員の皆様から、質問や感想なども含めてご意見を伺いたいと思います。

ご発言はありますでしょうか。

伊藤委員

英語教育について、丁寧にご説明いただきありがとうございました。ALTの授業数ですとか、様々に充実の方向に進んでいて、ありがたいなと思いました。

一つ、先生方のご感想を見ても思うのですけれども、子どもたちへの授業ということもそうなのですが、英語というのは、小学生の時代に英語とか英語活動があったという先生も多分、世代的にもういらっしゃるのだと思うのですけれども、そういうことがなかったという先生もいらっしゃると思うので、イメージが湧きにくいという小学校の先生も多い

かなと思いますし、日常的に英語を使うということを先生方ご自身が体験していらっしゃるのかどうかということも少し気になりました。

そういう意味で、先生方への研修とか、ALTの使い方として、職員室で、英語で先生方とコミュニケーションをとっていただくとか、日常的に先生方が英語でコミュニケーションをとるということについて、何かしていらっしゃるものがあったら教えてください。

指導室長

先ほどの説明の中にも少し入っていたかと思うのですが、ALTの先生方が、1日学校のほうに勤務してもらうようになってございます。学級数等から計算をいたしまして、1日平均、授業が4.3時間というような時数で、その学校への配置日数というのを決めさせていただいております。ですから、約3時間ほどはALTの先生の授業ではない時間というのをつくることができまして、その中で子どもたちと積極的に関わってもらおうということを意図して配置をさせてもらっているものです。

先生方も、当然授業の中でもALTの先生方とコミュニケーションをとりますし、子どもたちと一緒にALTの先生方とコミュニケーションをとる中で、ALTの先生と先生方の連携というのも深まっているというふうな話を伺っていますので、なるべく積極的に先生方も関わりながら、子どもたちもそういう姿を見て、ALTの先生方と本当にいろいろな場面で楽しく関わってもらえるとありがたいなどは考えているところです。

伊藤委員

二つございます。一つは今申し上げた点ですけれども、本当に子どもと触れ合う時間を増やすということがどうしても中心になると思うのですけれども、実は先生方とということもすごく大事なかなと思いますので、ぜひ活用の例として、そういった英語科だけでない先生方も含めて、子どもも含めて、話す時間をつくって、イングリッシュ・カフェ的なものをしていただくとか、先生も含めて、教育委員会のほうからも働きかけていただけたらいいかなと思いました。

あともう1点は、また改めて活動報告などの機会にご報告申し上げたいのですけれども、日本教育心理学会の大会がまだ1カ月続いておりまして、その中で、知識の定着、単語ですとか、そういった単純な知識の定着ということについては、もうビッグデータで、子どもの個々の記憶のあり方とか、そういうことが分析できる時代になっていて、タブレット端末で相当な定着が図れるものがあるということがわかってきたというような報告もございまして、ぜひ、ALTと関わるからつけられる力と、タブレット端末とかそういったもので定

着できる力と、狙いを定めての英語教育というのをこれから考えていっていただけるとい
いかなと思いました。

以上です。

岡本委員

質問なのですけれども、スライドの2ページ目で、「まちがいをおそれずに、英語で話そ
うとしている」中学2年生が56%で、ちょっと課題であるというお話がありました。「ま
ちがいをおそれる」って、やっぱり「まちがいだ」と言われるからだと思うのですよね。自
由に発言できる場面であれば発言はできるでしょうけれども、それが許されないから間違
いを恐れてしまうのではないかなと思います。

ちょっと難しいなと思うのは、中学校というのはやっぱり評価がありますので、間違っ
たら多分減点されますよね。となると、「まちがいをおそれずに発言する」って、実はすご
く酷なことを言っているのではないかなと思うのですが、このあたりは授業でどんなふう
にされているのでしょうか。

伊藤委員

今の点で、私ははっきり、これは日常的にということかなと思って。普段コンビニとか
で、外国人に話しかけられたりとか、そういうときの話をしているのだと思っておりまし
たけれども。違ったのですかね。

指導室長

こちらの質問項目としましては、普段の会話というようところがメインなのかなと捉
えております。

ただ、この内容については、実は中学校の英語を担当している先生方とも少し意見交換
をさせていただきました。先生方の「最近の」という表現が合っているかちょっとあれです
けれども、1年生などを見ると、かなり大きな声で自分から英語を話す子どもが増えてい
るという認識でいらっしゃいます。やはりこれは小学校3年生からずっと積み上げてきた
成果の一つであるという認識でいます。

相変わらず中学生になると恥ずかしいので、なかなか大きな声で発言だったり、英語で
発話することが少ないのだなんていう考えの先生も中にはいらっしゃるのですけれども、
英語に関してはそういう認識で捉える必要はないだろうということをおっしゃってくだ
さっている先生もいらっしゃいます。

今年度から、小学校1年生から全小学校でALTも配置をしまして、外国語活動もスター

トしましたので、これからは英語を話すときは、やはり言語ということですので、中学生になったからということよりは、小学校から着実に英語を使ってコミュニケーションを図る、自分の思いをきちんと相手に伝えるですとか、相手の考えをきちんと聞き取るといったような取組を増やして行って、ぜひ、この数値のほうも、より高い数値にしていきたいなどは考えているところです。

また、岡本委員にご指摘いただいたような評価ということにつきましても、やはり積極的に英語を使ってコミュニケーションをとるといふようなところも大事な評価の一つであるとは考えていますので、そのあたりで子どもたちが何か萎縮をしてしまわないような先生方の関わり方というのも、ぜひ引き続き工夫をしていきたいなどは思っているところです。

入野教育長

この出展が、令和5年度の「中野区学力にかかわる調査」なのですけれども、これは英語の授業においてということではなく、伊藤委員がおっしゃるように日常的にということでの調査ですので、英語の授業も入っているかと思えますけれども、英語の授業に限ったものではないというデータでございます。

岡本委員

ご説明ありがとうございます。読み取りがそこまでできていなかったです。小学校からの英語の積み重ねで積極的に声を出せる子どもが増えているというのは、すごくポジティブなお話だと思いました。そして、それが英語だけではもったいないなとも思っていました。

さっきも言いましたように、評価の問題はやっぱりあるので難しいところはありますけれども、そういった積極的に子どもたちが授業に関われるような工夫が、英語のみならず多くの教科で実現できてほしいなと思いました。

以上です。

村杉委員

詳しい、ご丁寧なご説明ありがとうございました。中野区ではとてもよい取組がされていると感じました。

特に今年度から、小学校1、2年での外国語活動が全小学校で実施されていることと、ALTを外国語の授業だけではなくて、様々な場面で活用されて、英語に触れる機会をたくさん確保されているということなど、やはり早くからたくさん英語に慣れ親しむというこ

とは、とても大切なことだと思います。

私も2点お伺いしたいのですが、他区でも同じような進度で英語の教育というのは進んでいっているのか。例えば、中野区では特にこういう点が特徴的なことであるですか、おわかりになる範囲で結構ですので教えていただければと思います。

指導室長

他区でも同様の研修等を行っているとは、我々も考えています。中野区独自といたしましては、やはり体験の部分ですね。学んだことを生かす場面というのをしっかりとつくりけているというのが、一つ中野区の高さであるとは考えています。小学校4年生、そして今年から中学校1年生でも体験の機会がございますので、ぜひそういうところで、実際に英語を使ってALTの先生や周りの友達とコミュニケーションがしっかりとれたというようなところで、自信をまたさらに高めてもらえるといいかなと思っています。

それからもう1点は、先生方への研修でございます。毎年異動が当然ございますので、そういう意味では、英語や外国語活動の研修をきちんと毎年実施ができていくというのは、一つ中野区での強みだと考えていますし、どうしても高学年を持つ先生が英語を指導している。低学年の先生方はなかなか英語を指導するというような機会、これまでなかったものですけれども、ぜひ今後も、全ての先生方が、子どもたちにとって楽しくて積極的に活動できるような授業を行ってもらえるように、引き続き研修のほうも力を入れていきたいと考えています。

村杉委員

あともう1点ですが、同じ世代の子どもたちと外国の子どもたちと触れ合うような機会があれば、もっと実践的でいいかなと思いますが、例えば交流のできるような海外の学校とか姉妹校のような、そのようなことは、今もう既にされている学校があるか、あるいはこの後、今後検討されていくのかどうかという点について、おわかりになる範囲でよろしくお願いたします。

指導室長

第七中学校のほうで、ニュージーランドのウェリントンと交流がもともとございまして、昨年度、そちらの中学生とオンラインで会話をするというような機会がございました。ただ、残念ながら向こうは男子校でして、女子生徒からは、ぜひ同世代の女の子たちとも会話をしてみたかったなんていう声はあったようですけれども、子どもたちも非常に積極的に取り組んでいたなんていう報告を指導主事からいただいているところなので、ぜひほかの

学校でもそのような機会をうまくつくって、子どもたちが英語の授業で学んだことを、海外の子どもたちと交流するというようなところにぜひ生かしてもらえたらと思っています。

入野教育長

つけ加えますと、ウェリントン相互に留学をやっています、中学校の生徒のおうちが、ウェリントンから来た子を受け入れるホストファミリーになる。今度、その子たちがウェリントンに行ってお世話になるという交流があって。コロナ禍でなかなかできなかったのですが、それが土台にあってウェリントンとということになります。国際交流協会が中心になってやっていたという事業で、そこから発展した交流先ということだと聞いております。

ほかにございますでしょうか。

平本委員

大変丁寧なご説明ありがとうございました。私のほうも、ほかの委員の先生方と重なる部分もありますが、特に中野区については、もちろん課題もいろいろ見えているというところはあるとは思いますが、とりわけ小学校1、2年生での外国語活動を全小学校で実施というところも非常によいと思いましたし、また英語体験活動を充実させているなというのをとても感じました。

その点でご質問なのですが、一つ令和2年度より始まっている小学校4年生対象のTGGプログラムと、あともう一つ今年度より実施予定の軽井沢のイングリッシュキャンプなのですが、それぞれ希望者が参加する形なのか、それとも基本的には全生徒が関われるような形なのかというのを教えてください。

指導室長

こちらは、小学校4年生も中学1年生も全員が参加をする体験活動となっております。

平本委員

やはり学校の授業の中だけではなくて、授業を超えた実際の生活や、あるいは社会の中で英語を使う場が増えることが、子どもたちの中から主体的な問いかけを生む上では、非常に大切ななと感じています。

実際に子どもたちのいろいろな様子を見てみると、使いたい場面で、この場面だと、例えばこういうことを言ってみたいので英語でどう言ったらいいのかとか、あとは外国の方との触れ合いの中で、こういうことをやっぱりよく聞かれるので自分で答えてみたいというような話が出てきたりする場面をよく見ますので、できるだけそういう機会を多くの皆様

につくれるような、充実化を目指していただけるとありがたいなと思います。

その観点で、もう1点質問なのですけれども、低学年であればそれほど差はないと思うのですが、やはり高学年にどんどん上がっていくにつれて、子どもたちの中でももちろん恥ずかしさが生まれてきたり、あるいは今、英語についてはやはり皆さん塾などもご利用されて、定着している能力の差が出てくることで、生まれる恥ずかしさとか、苦手意識とか、そういう部分が恐らく小学校高学年あるいは中学校につないでいく過程の中で、いろいろ見えてくるのではないかなと思っていますので、そういった観点で何か先生方への研修の中でのご意見や工夫とか、あるいはもう少し学びたいのだけれども、なかなか学ぶ機会がないというような金銭面も含めたそういったお子さんが、何か特別に受けられるような体験学習とか塾を超えたような工夫が中野区でできるといいなと思って。もし今わかる範囲であれば、お願いいたします。

指導室長

子どもたちの英語を使える差のようなものというのは、確かに実際に授業をしている中では、多少見受けられる部分もございます。海外から帰国されたお子さんなどもおりますので、逆にそういう場面で活躍の場が増えるといったことで自信を持つというようなお子さんもいると思いますので、一人ひとりの定着の状況などを十分に見ながら、小学校の場合はやはり担任が入って授業をしているというところが非常に大きなところかなと思っていますので、子どもたち一人ひとりの発達段階や習熟に応じて、上手に関わりをしてもらえたらいいかなと思っていますし、また、その内容につきましても、なるべくどのお子さんでも参加できるような場面などをしっかりとつくってもらって、英語を使ってコミュニケーションをとることが非常に楽しいと思ってもらえるような活動を、少しでも増やしていけたらと思っています。

また、学び続けるといったような視点では、1人1台のタブレット端末に、児童・生徒用の英語の教科書というのを全て入れさせていただいています。英語の教科書が入っていることで、発音などはご自宅でも聞くことができますし、家で自学自習をするような場面でも、積極的に活用してもらえたらと思っています。

また、併せてAIドリルのほうを今年度幾つか入れさせてもらっています。各学校でも様々な場面で活用しながら、どのような使い方がより効果的かということで今検証を行ってもらっておりますが、今後もこういうタブレット端末などを使って、ご自宅でYouTubeなども見られるようになってございますので、そういう中でも、子どもたちにとっ

でもプラスになるような教材があれば、ぜひ積極的に紹介をしてもらったりして、子どもたちの意欲が高まったときに、もっともっと学びたいというような子どもたちの思いを満たせるような関わりを学校のほうからも、子どもたちに伝えてもらったりしていくことができればよいなと思っているところですので、このあたりはまた研修などの中でもしっかりと先生方にお伝えしていけたらと考えております。

伊藤委員

あと、わかる範囲で大丈夫なのですけれども、実は一番気になるのは、英語の勉強が好きという子がやっぱり中学校3年生になると随分減ってしまっていて、小学校6年生に比べて16%減ぐらいですよ。これ、中学校3年生なので主要な入試科目ということもございますので、そういったプレッシャー等も相当関わってくると思いますし、また、昨今言われているように、私どもが子ども時代に比べて非常に難しくなっているというようなこともあるので、苦手意識を持つ子がいて当然だとは思いますが、特にこういう分野、書きの分野についてとか、あるいはこういう分野について読解とか長文とか英作文とか、何か特に中野区で課題と思われるような、あるいはこの年齢段階で急減するとか、もしそういったことがおわかりだったら、教えていただきたいということが一つと。

もう一つは、その次に記載があるところですが、「日常的に英語を使う機会が十分にある」というのが中学校3年生だと随分と減るのですが、もしかしたら、これは小学校6年生ぐらいだと習い事として英語をしていらっしゃる子が多いのが、進学塾などにさま変わりする中で減ってしまうということなのかなと思うのですが、そういう私塾頼みではなくて、学校の中で日常的に英語を使う機会をどのように確保するか、増やしていくかということが課題だとは思いますが、このあたりについても何か分析とか、対策がございましたら教えていただければと思います。

指導室長

まず、学年が上がるにつれて、なかなか英語の勉強が好きだという割合が下がってしまうというのは、こちらは英語に限らずというところではございますけれども、このあたりは今後の課題とは捉えているところです。

全国の学力調査などで、全国と比べましても、中野区が特段低いとかいうことはございません。本当に全国とほぼ同じような結果が出ておりますし、また、リスニングなども目標値はもちろん上回ってはいるのですが、ここ数年見ても、特段何か大きな変化というのはなく、目標値は上回っているというような状況になってございます。ぜひ、その

あたりも、少し成果が上がっていくような取組というのを先生方の研究会の中でも話題として取り上げていただいて、さらに子どもたちの意欲を引き出せるような授業改善というのを図っていただけたらとは思っています。

また、伊藤委員から今お話しいただきました、日常的に英語に触れるような機会というのをどうつくるかというのは、なかなか難しさがあるかなと思っはいるのですが、一例といたしましては、中野東中学校のほうが帰国子女の生徒たちを、積極的に受け入れをしております、英語を話すということについては英語の先生方よりも堪能な生徒がたくさんいて、放課後にそういう生徒さんを集めて英語でコミュニケーションをとるといような時間をつくってございます。ぜひそういう場にも、小学校から学んできた、特に海外で生活をしたことがないのだけれどもというような生徒も参加をしてもらったりしながら、英語を使ってコミュニケーションをとることの楽しさや、将来英語を生かして仕事に就きたいなんていう夢を持っていただいたりということに、きつとつながっていくのだろうなと思っはいますので、そういう活動の時間もぜひ大事にしていけたらと思っはいます。

伊藤委員

先ほども少し申し上げたことなのですけれども、面白いなと思っはして。一夜漬けで5分勉強してもほとんど意味がないと。だけれども、その一夜漬け5分を1年間やると、相当な力になっていくということが確実に今、AIの分析でわかっているという話もあつて、当然と言えば当然なのですけれども、ですので、本当に数分の学習でもいいので、楽しく、本当に単語とかは知識の定着という単純な部分がございしますので、そういったところも各校いろいろと工夫をしていただけるように、お声がけいただけるといいのではないかなと思っはしました。

以上です。

岡本委員

今のお話に関連してちょっと思い出したのですけれども、例えば部活動とかの一場面を英語でやってみるとか、そういう取組もあるというのを聞いたことがありました。

例えばサッカー部ですと、将来海外で活躍したいという子は同時に英語を学べるので、モチベーションが違うと思うのですよね。自分の好きなことだったら一生懸命学べると思っはいますし、言葉も覚えやすいので、部活動全てでやるのは先生方も大変かもしれませんが、ちょっとそういう案もあるかなと思っはしました。

違う話ですみませんけれども、一つだけ話をさせていただきたいのですが、今日の小中

学生の話とはちょっとずれるかもしれないのですが、グローバル化の中のコミュニケーションという意味では、話す内容というのもやっぱり大切になるのではないかなと思いました。いくら英語を話したいというモチベーションがあっても、例えば日本の文化について理解がなかったりとか、あとはグローバルな課題について自分の考えがなかったりしたら、やっぱり話せないと思うのですね。例えば、今日の国連の役割はどうあればいいのかとか、原発処理水をどうするのかとか、そういう話になったときに、どれだけ自分の中にそういう日頃からの考えがあるか。なければ、英語でも日本語でも話せません。そこも含めてのグローバル化時代のコミュニケーションなのではないかなと思いました。

以上です。

伊藤委員

今のグローバル化ということ言えば、先ほど英語を生かした職業、仕事とおっしゃいましたけれども、子どもたちが生きていく未来を考えたら、英語が話せないと職に就けないとか、英語がベーシックスキルになっていくとされていて。ですので、そういう観点からしっかりと教育をしていただけるように、先生方にもお伝えいただけたほうがいいのではないかなと思いました。

以上です。

入野教育長

よろしいでしょうか。

それでは、私のほうから、まとめというわけではないのですが、私自身も、このところ全国の学力調査の結果なんかも出ておまして、先ほど「中野の」というお話があったのですけれども、都の結果を見ますと、中3の英語は全国トップであるという結果が出ておりました。ただ、その「読む、聞く」は50%強、オーケーなのですけれども、「書く」になると24%、「話す」になると12%、その中で全問不正解が6割ぐらいいるというようなデータが、たしか新聞に出ていたかなと思っております。

今までの委員方のお話にもありますように、要は、気負わずに即興でも答えられるという力が大事なのかなと。単語だけでも、子どもたちが伝えていくという力をとっていくのでしょうか。伝えていこうとか、話をしようというところを育てていくことと、さらに、もう一つは、今まで岡本委員からもお話が出ていたのですけれども、やっぱり自分の考えをまとめて発表する力というのは、英語だけではなくて、つけていく必要があるかなというのを私は感じたところでございます。

中野区としては、即興でも答える力となると、やっぱり授業の時間だけではなくて、会話というか、外国の方のお話をする機会をたくさん持つという意味で、授業中だけでなくALTは1日配置にしてきたのですね。もしかすると、もっとそれを増やしていかなければいけないのかもしれないなという気もいたします。

まとめる力も、先ほどから言っているように、英語だけでつけていくものではないので、国語であったり、全ての授業の中でそういうような、今、対話的だと言っているぐらいですから、ちゃんとした力もつけていかなければいけないのかなという思いを持ちました。

私自身は、非常に垣根があるほうの人間ですので、そんなに即興でお話ができるというよりは構えてしまうという、どちらかという英語教育が上手にできなかった見本かもしれないのですけれども、子どもたちを見ていると、本当に、単語でもいいし、何でもいいし、全然垣根なく話していくような姿がたくさん見られるようになったなと思っておりまして、教育委員会としても、さらなる施策と機会を持っていけたらなと考えております。

ありがとうございました。それでは、本協議を終了してよろしいでしょうか。

それでは、本協議を終了させていただきます。

ここで会議を一旦休憩して、傍聴者の方々からもご意見などを伺いたいと思います。

それでは、会議を休憩いたします。

午後7時49分休憩

午後8時00分再開

入野教育長

それでは、会議を再開いたします。

本日いただいた意見は、いろいろな意見をいただきましたので、今後の教育行政にまた生かしていければなと考えております。

<教育長及び委員活動報告>

入野教育長

次に、報告事項に入ります。

教育長及び委員活動報告について、事務局から報告する事項は特にありませんけれども、各委員からの活動報告等がございましたらお願いいたします。

伊藤委員

日本教育心理学会はまだ続いておりまして、ぜひ、お伝えしたいと思いましたが、本も急ぎ持ってきたのですけれども、当たり前ではあるのですけれども、発問のパターンによっ

て、子どもたちのモチベーションというか、活用型の知識、単に知識を知識として学ぶのではなくて、活用に近づけるような発問の仕方の法則みたいなことの研究の発表があって、非常に面白かったので、そういう法則がわかっていたら、それを授業で、それこそ活用していただきたいということがあって、発表されていた先生のご著書があったので持ってまいったのですけれども。

とにかくそういう新しいことを、指導室の先生方初め、先生方に学んでいっていただいて、授業をどんどんよくしていただきたいなという思いをさらに深めました。また報告したいと思います。

入野教育長

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

そうしましたら私のほうから。今日は英語教育だったのですけれども、海外から日本にいらした方たちの子どもたちが、いろいろな形で日本語指導を受けています。その中の一つが、国際交流協会で、夏休みの子ども日本語クラスというのをやっていたいております。その閉校式に、「やったね！の会」ということなのですけれども、夏休みの暑い中、何日も、なかのZEROの西館のほうに通って勉強して、それこそ最後はスピーチを全員がするという、「やった！」という会なのですけれども、それに参加させていただいてまいりました。

今年の夏休みに通った区内の小学生、中学生は、海外から来ているお子さんたちは53人いたそうで、今回スピーチをしたお子さんは28人おりました。それぞれが、自分のことであったり、好きなものであったり、さらに中学生ぐらいになると、将来の夢であったり、自分の故郷のことだったり、日本と故郷との違いであったり、日本に来て頑張ったことであったりというお話を、全部日本語で話してくれたのですけれども、何しろ発音がとてもきれいだったということと、内容がすごくすてきだったということと、大変礼儀正しいのです。スピーチの仕方、礼から始まってということもあるのですけれども、すごく上手なスピーチの仕方だったなと思います。

今年は、皆勤賞のお子さんも4人ほどいらしたということと、国際交流協会の日本語指導のテキストが34巻あるのですね。それを全部修了したという中学3年生がいて、非常に上手な日本語でしたし、そのお子さんが司会を全部したのですけれども、それもすばらしかったと思います。先輩のお話ということで、ネパールからいらして、中学校も卒業して、今、中野区の老人ホームで介護士として働いているという女性が、自分の体験談のお話を

してくれたりというような会でした。

これもまたボランティアの方々に皆さん協力していただいているのですが、非常に大事な日本語指導だと思いましたし、しっかりと日本語を身につけようという思いがあるお子さんたちもいっぱいいましたし、この夏に来たばかりというお子さん、つまり1カ月もたっていないようなお子さんも、きれいに日本語で話せるということを考えますと、反対に、英語教育に戻ると、私たちも英語を話せるような教育のあり方、これからの子どもたちはやっぱり話せないとなかなかこれからは仕事も活躍もできないような状況になると思いますので、考えていかなければいけないなという思いを持ったところでございます。非常に有意義な時間でした。

ご報告申し上げます。

それでは、発言がなければ、委員活動報告を終了いたします。

<事務局報告>

入野教育長

続いて、事務局報告に移ります。

事務局報告、「教育相談室の土曜日開室の試行について」の報告をお願いいたします。

指導室長

それでは、「教育相談室の土曜日開室の試行について」、説明をさせていただきます。

まず、事業目的でございます。現在、中野区の教育相談室では、専門の相談員が子ども及び保護者からの教育に関する様々な相談に応じてきており、来室または電話により相談を行っております。教育相談室は、これまで平日の午前10時から午後6時までの時間、開室し相談を受けてまいりましたが、ライフスタイルの変容等から土曜日の相談のニーズが高まってきております。今年度、試行的に土曜日の相談業務を実施し、その成果について検証を行い、今後の教育相談室のあり方について検討するものでございます。

試行日時でございますが、こちらに記載のあるとおり、令和5年9月30日土曜日から、毎月1回、12月2日土曜日まで実施する予定です。時間は、午前10時から午後6時までを予定しております。

試行時の対応業務といたしましては、通常の相談と同様に、電話相談と来室相談を予定しております。

今後の予定でございますが、9月1日の子ども文教委員会で報告をし、9月20日の区報でも広く区民の方々に周知をしております。

説明は以上でございます。

入野教育長

ただいまの報告につきまして、ご発言がありましたらお願いいたします。

伊藤委員

やはりコロナ禍の後、不登校が全国的に増えているなど、メンタルヘルスの問題というのがすごく大きくなっていることは否定できないと思っております。そして、ライフスタイルの変化等とありましたけれども、従来より、放課後しか子どもは相談に来られない、学校に行っていたら放課後しか行けないので、本当に相談のできる時間というのが平日はとても限られてしまいますので、そういう意味でも土曜日の開室は非常に待ち望まれているものではないかなと思っております。

困っていらっしゃる方ご自身だけでなく、周囲のお子さんや、学級全体にも、やはり1人のお子さんの健康というのは影響していくことだと思いますし、できればこれから2週間に1回とかそういう形での継続相談も土曜日にできるように、開室を広げていただけたらと思いますし、何分、何をすることもコストというのがかかってきますけれども、必要などころに、なるべく他の予算を削っても持ってくるということをせざるを得ないのかなと考えていまして、なるべくこういったところにも予算をつけていただければと考えました。

以上です。

入野教育長

ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本報告は終了いたします。

最後に、事務局から、次回開催について報告願います。

子ども・教育政策課長

次回の教育委員会でございますけれども、9月8日金曜日午前10時から区役所5階教育委員会室で開催する予定です。

9月1日は休会となります。

以上です。

入野教育長

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第28回定例会を閉じます。ありがとうございました。

午後8時07分閉会